第２章　環境の現状

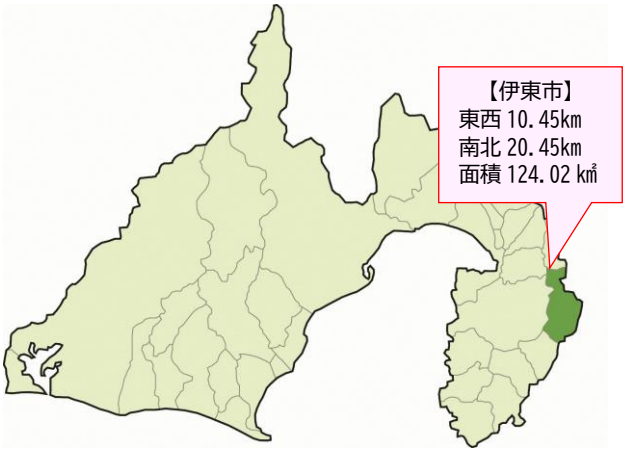
第１節　市の概況

(1)位置・面積

本市は、静岡県の最東端、伊豆半島の東に位置しており、東は相模灘に面し、北は熱海市、西は伊豆の国市、伊豆市、南は東伊豆町に接しています。市域は、東西 10.45km、南北 20.45km と南北に長く、海岸線はおよそ 40km に及んでおり、面積は 124.02 ㎢で県下 23 市のうち 13 番目の広さです。

全国有数の湧出量を誇る温泉地である本市は、伊東八景などの地域資源に恵まれ、その雄大な自然は四季折々の色鮮やかな彩りをみせるなど、私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えています。

なお、市域の 44.7%が「富士箱根伊豆国立公園区域」に指定されています。

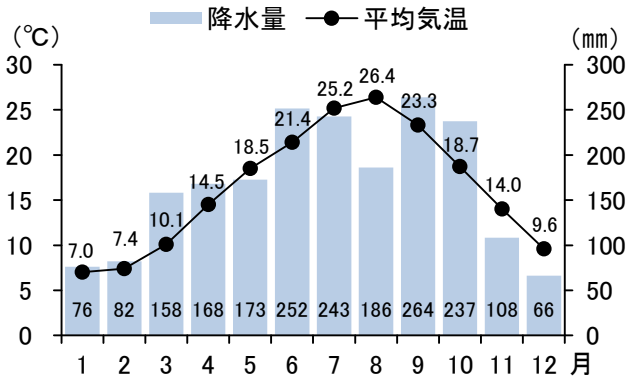


伊東市の位置

(2)気象

網代特別地域気象観測所のデータによると、気温の平年値（1991～2020 年の平均値）は 8 月が 26.4℃で最も高く、1 月が 7.0℃で最も低くなっています。年平均気温は 16.3℃で温暖な気候といえます。

年間降水量の平年値は 2,012.7mm であり、梅雨の 6 月及び台風シーズンである 9 月が多くなっています。

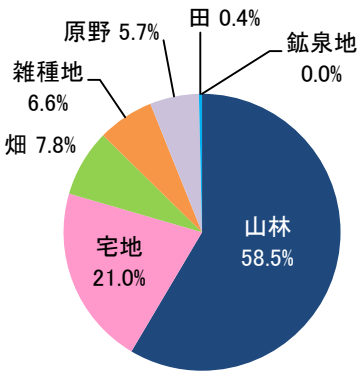


平均気温と降水量
（1991～2020 年の平均値：網代）
【資料：気象庁】

(3)土地利用

本市の土地利用の状況は、2020（令和 2）年の時点で山林（58.5%）が全体の約 6 割を占めています。次いで宅地（21.0%）、畑（7.8%）、雑種地（6.6%）、原野（5.7%）の順となっています。

畑、山林、原野が減少傾向であり、宅地が増加傾向になっています。

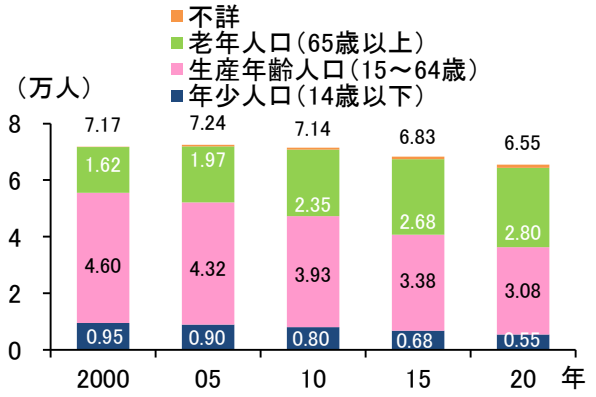


地目別土地利用面積（2020 年）
【資料：伊東市統計書】

(4)人口・世帯数

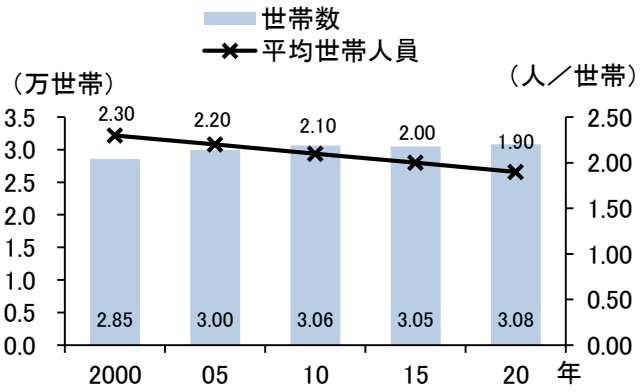
国勢調査によると、本市の総人口は減少しており、2020（令和 2）年は 65,492 人となっています。老年人口割合は、2000（平成 12）に 22.6%でしたが、2020（令和 2）年には 42.7%に増加するとともに、年少人口は 13.3%から 8.4%に減少しており、少子高齢化が進んでいます。

世帯数は微増しており、2020（令和 2）年は 30,820 世帯でした。また、平均世帯人員は年々減少しており、2020（令和 2）年は 1.90 人/世帯と核家族化が進んでいます。



人口の推移

【資料:国勢調査】



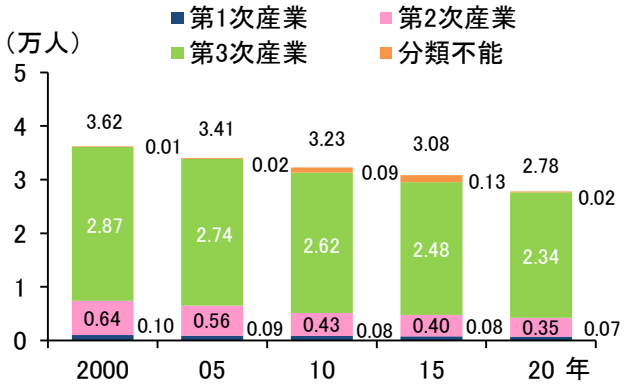
世帯数・平均世帯人員の推移

【資料:国勢調査】

(5)産業

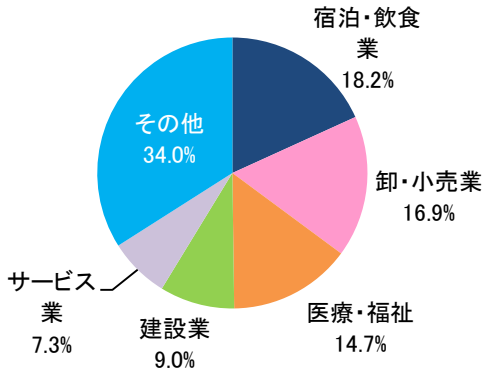
2020（令和 2）年の国勢調査によると、本市の就業人口は 27,799 人で、第 3 次産業が 84.1%を占め、第 2 次産業、第 1 次産業はわずかです。

産業大分類別では宿泊・飲食業（18.2%）が最も多く、次いで卸・小売業（16.9%）、医療・福祉（14.7%）、建設業（9.0%）、サービス業（7.3%）の順となっています。



産業別就業人口の推移

【資料：国勢調査】



産業別就業人口（2020 年度）

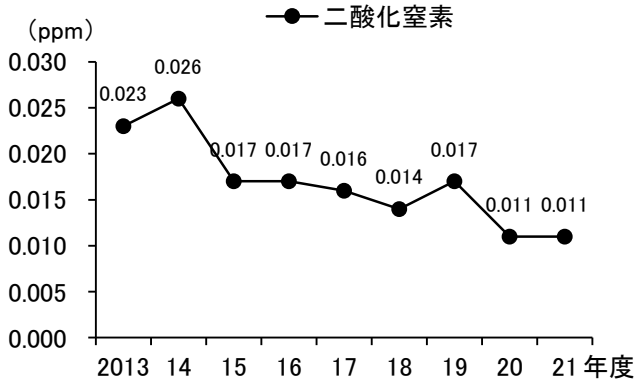
【資料：国勢調査】

第２節　生活環境

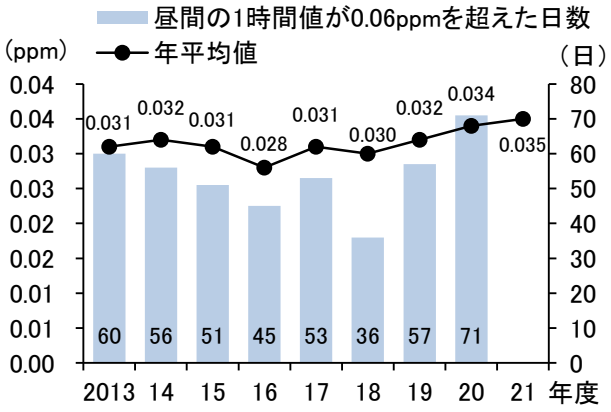
(1)大気

本市では、伊東市役所で二酸化窒素及び光化学オキシダントの常時監視を行っています。測定結果をみると、二酸化窒素濃度はおおむね改善傾向を示しており、全ての年で環境基準を達成しています。一方、光化学オキシダントは全国及び県全体の傾向と同じく、環境基準を達成していない状況が続いています。なお、2021（令和3）年度は、光化学オキシダント注意報が2回発令されました。

2021（令和3）年度には、静岡県の大気測定車によるPM2.5測定や本市測定局の大気測定の結果から、本市の大気環境が安定的に良好な状態であることを確認しました。



二酸化窒素（98%値）の状況（伊東市役所）
【資料：伊東市環境基本計画年次報告書】



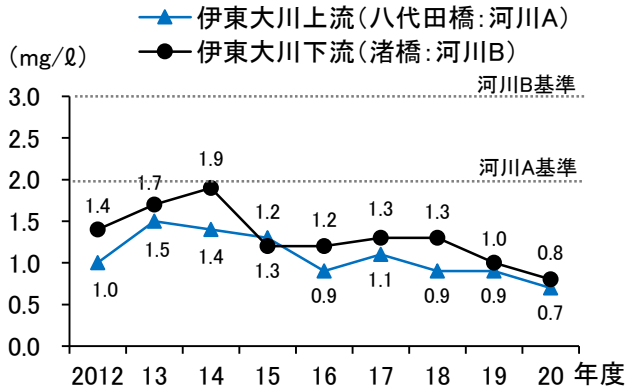
光化学オキシダントの状況（伊東市役所）
【資料：大気汚染及び水質汚濁等の状況】

(2)水質

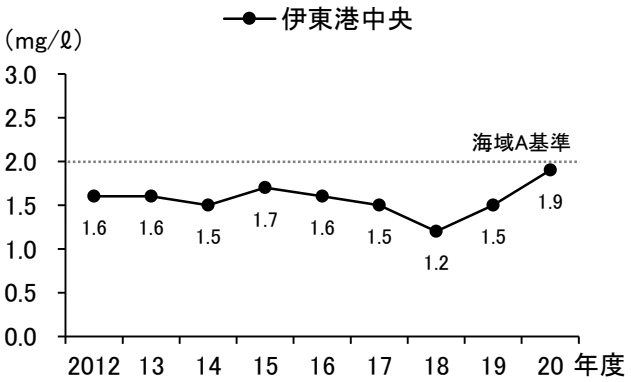
■河川・海域の水質

河川では、伊東大川上流（八代田橋）で河川A（BOD：2mg/ℓ以下）、伊東大川下流（渚橋）で河川B（BOD：3mg/ℓ以下）の環境基準が設定されていますが、BODの数値はいずれの地点も環境基準を達成しています。

海域については、伊東港中央で海域A（COD：2mg/ℓ以下）の環境基準が設定されていますが、CODの数値は環境基準を達成しています。



BOD（75%値）の推移（河川）
【資料：大気汚染及び水質汚濁等の状況】

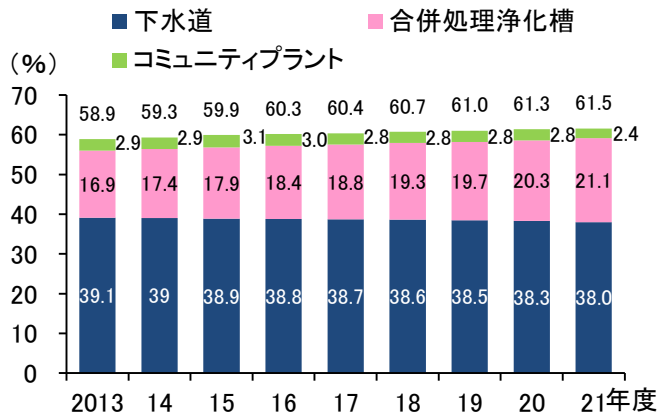


COD（75%値）の推移（海域）
【資料：大気汚染及び水質汚濁等の状況】

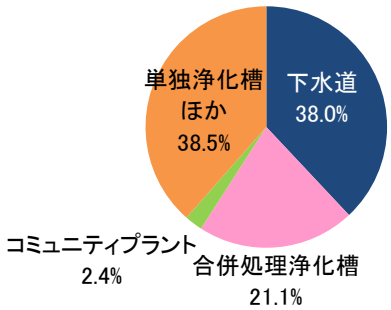
■生活排水処理

本市の下水道普及率は徐々に増加しておりますが、2021（令和3）年度末時点の下水道普及率は38.0%で、静岡県の平均（65.3%）よりも低くなっています。また、本市の汚水処理人口普及率は61.5%（県内27位）で、静岡県の平均（84.3%）よりも低くなっています。

また、生活排水の処理が行われない単独処理浄化槽については、早期に公共下水道や合併処理浄化槽などへの移行を図る必要があります。本市では、2021（令和 3）年度末時点で、約 38.5%の家庭の生活排水が処理されず、そのまま河川へ排水されています。



汚水処理人口普及率の推移
【資料：静岡県都市局生活排水課】



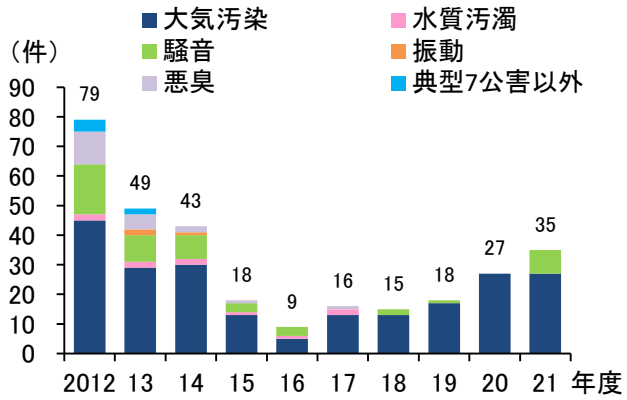
汚水処理状況（2021 年度）
【資料：静岡県都市局生活排水課】

(3)その他生活環境

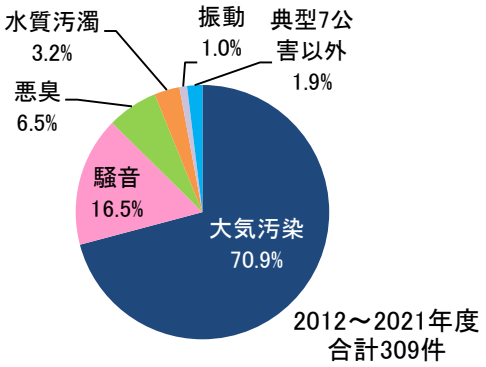
■公害苦情

2012（平成 24）～2021（令和 3）年度において、市に寄せられた公害苦情件数は合計 309 件あります。公害苦情件数の割合は、大気汚染（70.9%）、騒音（16.5%）、悪臭（6.5%）などが多くなっています。公害苦情件数は徐々に減少していましたが、2016（平成 28）年度以降は再び増加しています。

本市は中小零細企業が多数を占めるため、規制対象になる特定工場等が少なく、規制対象に係る苦情は多くありませんが、空調機、楽器、ペットの鳴き声などの一般家庭からの騒音の苦情が問題になることが増えています。



公害苦情件数の推移
【資料：環境課】



公害苦情件数の内訳
【資料：環境課】

■騒音

2021（令和 3）年度の自動車騒音の常時監視（面的評価*）結果は、評価の対象とした道路（総延長 15.2 km）に面する地域の住居等（990 戸）の環境基準達成状況は、概ね基準値以内であり、昼夜超過もなく良好でした。

＊面的評価：一定の区間ごとに道路の沿道（50 メートル以内）に建っている全ての住居等の騒音レベルを推計し、環境基準値を超える個数及び割合により評価するもの。

■悪臭

本市の悪臭発生源は、近年畜産業や水産加工業から、飲食店や動物の飼育、廃棄物の不正焼却等に変化しており、管理者による適正な管理体制が必要となっています。

■土壌汚染

本市では、2011（平成 23）年度に「土壌汚染対策法」に基づく土壌汚染地域として 1 箇所が指定されましたが、対策を講じた結果、2019（令和元）年度で指定が解除され、現在は土壌汚染地域はありません。

■有害化学物質

ダイオキシン類は国及び静岡県が、県内 136 地点（2020（令和 2）年度）で測定を行いましたが、全ての地点（市内での測定は無し）で環境基準を達成しました。

廃棄物の野外焼却は煙や悪臭とともにダイオキシンが発生するおそれがあることから、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「静岡県生活環境の保全等に関する条例」により一部の例外を除き、禁止されています。本市では、野焼きの禁止について、ウェブサイトやチラシで注意喚起しています。

■動物愛護

本市では、飼い主のいない猫の繁殖を防止し、不幸な猫を増やすことなく、快適な生活環境の保全を図るため、飼い主のいない猫の去勢・不妊手術費用の一部を補助しています。

また、飼い犬や飼いねこ、飼い主のいないねこなどのマナー・ルールの普及啓発を図っています。

colum コラム

動物の飼い主の責務とは？

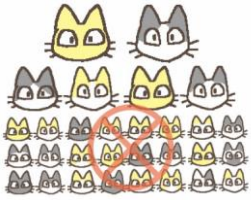
「動物愛護管理法」の第 7 条では、動物の飼い主（所有者または占有者）の責務を定めています。動物を飼う際には、これらの責務をしっかりと守りましょう。

迷惑防止

感染症の予防

逸走防止

終生飼育


繁殖制限

所有明示

【資料：知っていますか？動物愛護管理法（環境省）】

第３節　自然環境

(1)富士箱根伊豆国立公園・伊豆半島ジオパーク

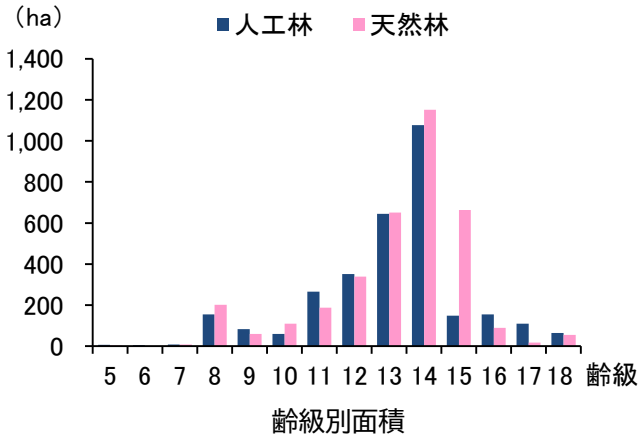
本市は、大室山から城ヶ崎海岸にかけての山地及び海岸線、伊豆スカイライン周辺など、市域の約 45%が富士箱根伊豆国立公園区域に指定されています。

2018（平成 30）年 4 月には「伊豆半島ジオパーク」がユネスコ世界ジオパークに認定されました。市内には 50 箇所以上のジオサイトがありますが、ビジターセンターの「ジオテラス伊東」や「ジオポート伊東」でこれらのジオサイトの紹介や展示などを行っています。

(2)森林

本市の森林面積は 6,872ha（民有林 6,846ha、国有林 26ha）で、総面積の約 55%を占めています。「伊東市森林整備計画」で対象としている森林面積 6,835ha のうち、スギ・ヒノキを主体とした人工林面積が 3,145ha（人工林率：約 46%）と約半数を占めています。人工林の約 94%は 41 年生（9 齢級）以上で資源として成熟していて、森林整備の促進による利用が望まれていますが、担い手不足などにより、森林を集約化した施業が行いにくい状況にあります。

また、市内には市の巨木や名木が分布しており、大切に保護・保全を行っています。



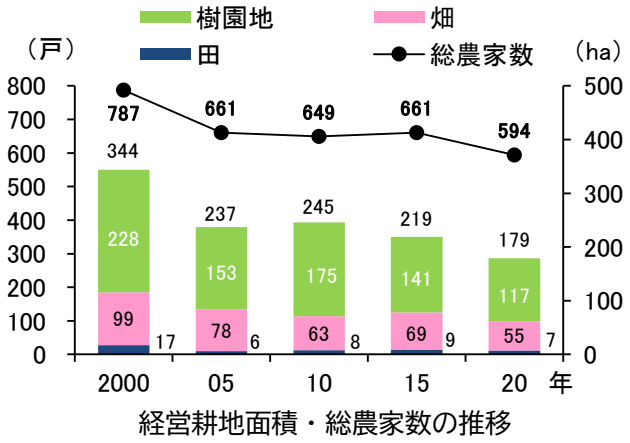
齢級別面積

注）1～5 年生を「1 齢級」と数える。

【資料：伊東市森林整備計画】

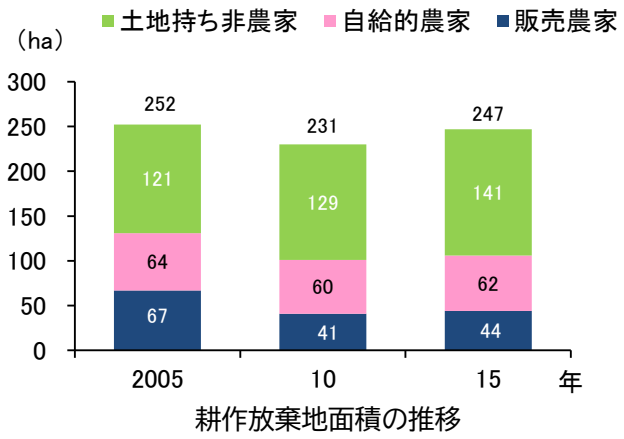
(3)農地

経営耕地は主に樹園地及び畑からなっており、田はほとんどありません。樹園地、畑ともに面積が減少しており、2020（令和 2）年は 179ha となっています。総農家数も減少傾向で、2020（令和 2）年は 594 戸となっています。また、2015（平成 27）年の耕作放棄地面積は 247ha でした。



経営耕地面積・総農家数の推移

【資料：農林業センサス】



耕作放棄地面積の推移

【資料：農林業センサス】

(4)河川・海岸

宇佐美から赤沢までの市内の海岸線は、延長 40km に及び、その形態は砂浜、磯浜、断崖絶壁など変化に富みます。また、伊東大川、烏川、泉川、北川、落合川、寺田川、小沢川、本郷川、伊東宮川、伊東仲川など市内河川の総延長は 234km に及びます。

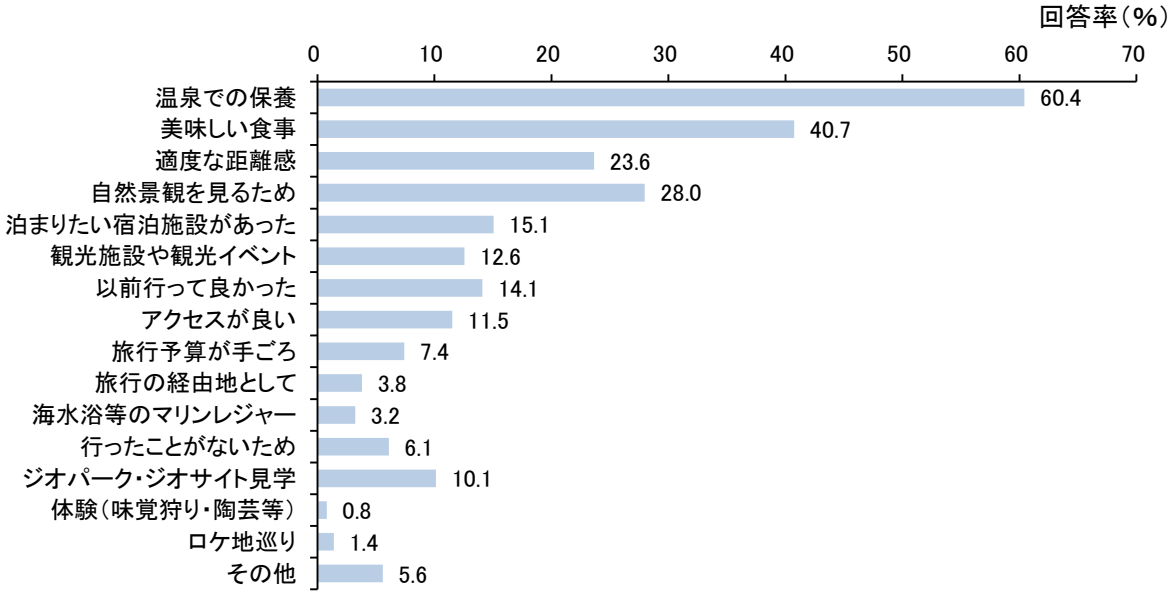
城ヶ崎海岸では松枯れ対策として、地元ボランティア団体と協働による予防剤の注入や松林の清掃活動を行っています。

(5)水資源

本市の水道水源は、湧水、地下水、伊東大川の表流水、奥野ダムの湖沼水です。本市は観光地であり多数の観光客を受け入れることから、同規模の自治体に比べ配水量は多い傾向にあり、1989（平成元）年に制定した「伊東市水道水源保護条例」に基づいて水源の水質保全に取り組んでいます。

また、伊東温泉は、日本有数の温泉場の１つに数えられ、全国有数の温泉総湧出量を誇っています。「令和３年度伊東温泉観光客実態調査」によると、旅行先に本市を選んだ理由として、「温泉での保養」が最も多く、温泉を目的として多くの観光客が来遊していることがわかります。

なお、近年の地球温暖化に伴う気候変動や、開発行為によって水循環に大きな変化が生じていることなどを受け、静岡県では「静岡県水循環保全条例」を制定し、健全な水循環の確保に努めていくこととしています。



旅行先に伊東市を選んだ理由

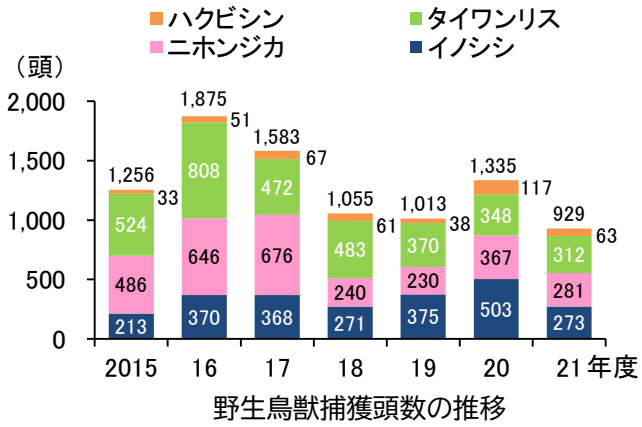
【資料：令和３年度伊東温泉観光客実態調査】

(6)生物

■野生鳥獣被害

本市における 2021（令和 3）年度の野生鳥獣の被害金額は 262.6 万円、被害面積は 751 アールであり、果樹、野菜、いも類などへの被害が報告されています。

また、2021（令和 3）年度の捕獲頭数はタイワンリス（312 頭）が最も多く、次いでニホンジカ（281 頭）、イノシシ（273 頭）などとなっています。



野生鳥獣捕獲頭数の推移

【資料：伊東市鳥獣被害防止計画】

■外来種

市内では、「外来生物法」の特定外来生物に指定されているオオキンケイギクやタイワンリスが確認されています。これらの特定外来生物は、同法により栽培、保管、運搬、輸入などが禁止されています。なお、「外来生物法」の改正により、都道府県や市町村に対する責務規定が創設されるとともに、防除を行うに当たって必要とされている国への確認手続を不要とし、都道府県による迅速な防除が可能となりました。

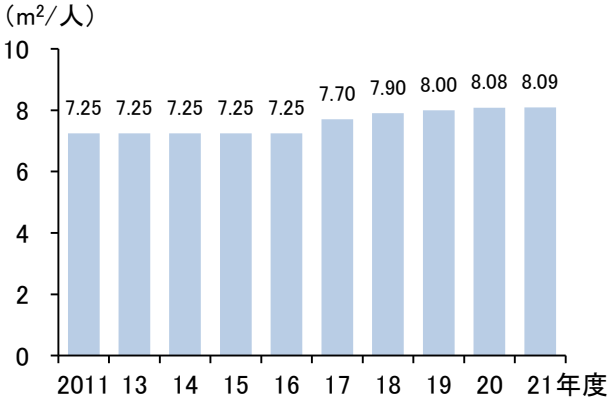
また、市内の南部地域を中心にヤンバルトサカヤスデが確認されています。ヤンバルトサカヤスデは、もともと台湾に生息し、1983（昭和 58）年に沖縄県で確認されて以来、分布を広げ、静岡県内でも拡大傾向にあります。農作物に被害や人に危害は加えませんが、時には異常発生し、壁や塀によじ登ったり、家屋の中に侵入したりして不快感を与えることから、不快害虫とされています。

(7)公園・緑化

■都市公園

都市公園とは、「都市公園法」に基づいて設置される公園または緑地のことで、子どもからお年寄りまで、多くの市民の皆さんの活動の場、憩いの場となっています。他にも、地球温暖化の防止などの環境保全や災害時に避難・復興の拠点地になるなど、地域に欠かせない役割を担っています。

2021（令和 3）年度の都市計画公園 1 人当たりの面積は 8.09m²/人です。



都市計画公園１人当たりの面積の推移

【資料：伊東市環境基本計画年次報告書】

■緑化

本市では、グリーンバンク制度を活用した緑のカーテンの普及、花の種子・球根・苗などの配布のほか、公共施設の里親制度（アドプトシステム）登録団体への支援などを行っています。

(8)景観

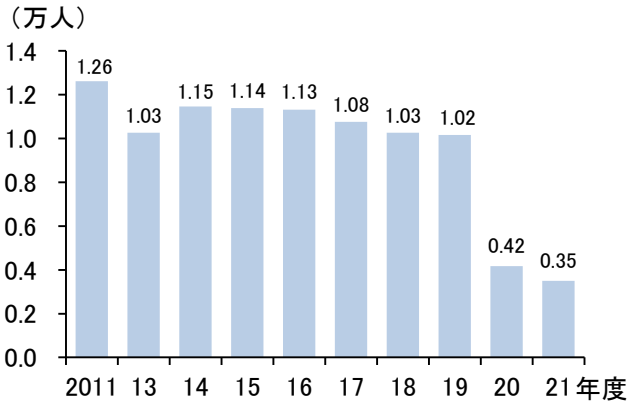
本市は素晴らしい自然環境資源に恵まれています。このうち、大室山、小室山、城ヶ崎海岸、松川、汐吹海岸、一碧湖、オレンジビーチ、巣雲山は、本市を代表する観光名所として「伊東八景」と呼ばれています。また、本市では、1996（平成 8）年に「伊東市景観条例」を制定し、自然豊かな景観資源を活かした自然と調和したまちづくりを目指しています。

(9)歴史・文化財

本市の先人たちは、恵まれた自然環境を活用して、産業を興してまちを発展させ、郷土の文化を育んできました。現在では先人たちが築いた郷土文化は、有形・無形の文化財として継承されています。

歴史文化に触れた人数は、毎年１万人程度で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、文化施設での入館者数が減少し、2021（令和3）年度は3,501人となりました。

本市には、指定・登録文化財が57件あり、そのうち天然記念物として17件が指定されています。また、多数の埋蔵文化財包蔵地が分布しています。



歴史文化に触れた人数の推移

【資料：伊東市環境基本計画年次報告書】

指定文化財(天然記念物)

	名称
国指定	葛見神社の大クス、八幡宮来宮神社社叢、蓮着寺のヤマモモ、大室山
県指定	天照皇大神社社叢、林泉寺のフジ、比波預天神社のホルトノキ
市指定	ヒメユズリハ群落、音無神社のタブの木、最誓寺のソテツ、山神社のムクの木（群落）、伊吹ビャクシン、高見のシイの木、音無神社のシイの木、かんのん浜ポットホール、大室山スコリアラフト、城ケ崎海岸燕島（つばくろじま）のアマツバメ集団生息地

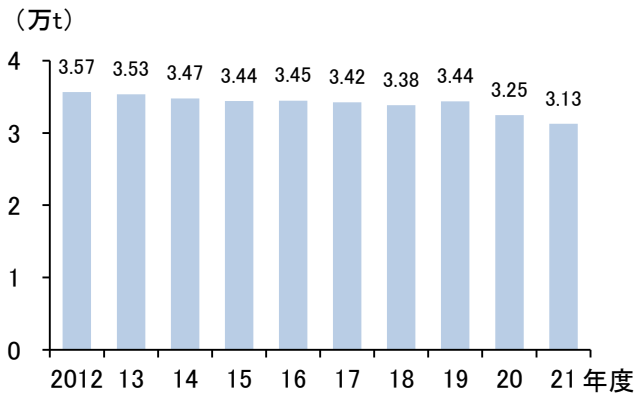
【資料:生涯学習課】

第４節　廃棄物・地球環境

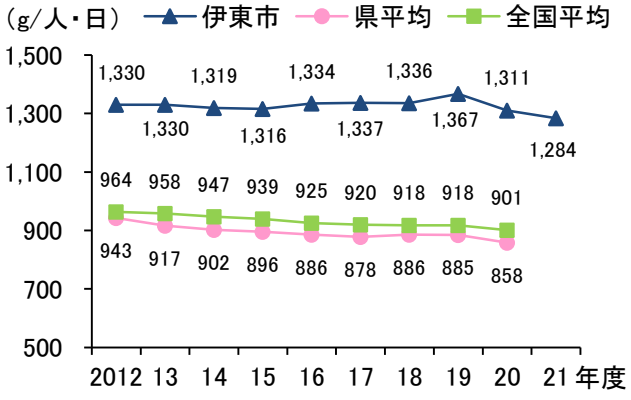
(1)廃棄物

■ごみ排出量

本市の 2021（令和 3）年度におけるごみ総排出量は 31,259t/年で、減少傾向にあります。また、1 人 1 日当たりのごみ量は 1,284g/人・日であり、2020（令和 2）年度の県平均（858g/人・日）や全国平均（901g/人・日）より多くなっています。



ごみ総排出量の推移
【資料：一般廃棄物処理実態調査、環境課】



１人１日当たりのごみ量の推移
【資料：一般廃棄物処理実態調査、環境課】

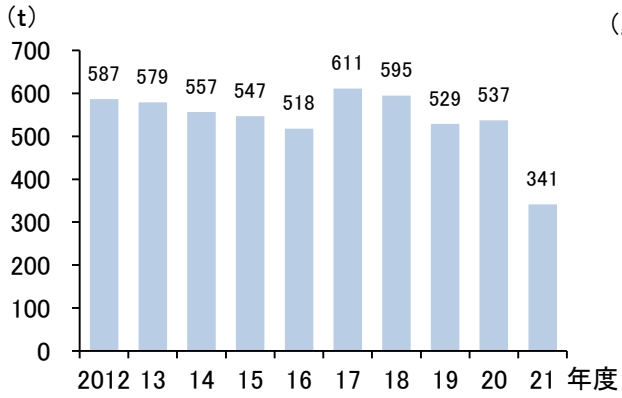
■中間処理･最終処分

環境美化センターでは、可燃ごみや可燃粗大ごみを焼却処理後、焼却灰を溶融固化処理し、無害化された溶融スラグは道路舗装の路盤材などに利用されており、再資源化に努めています。

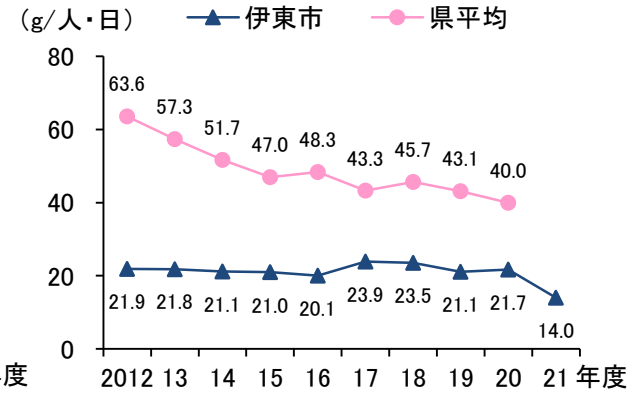
御石ヶ沢清掃工場では、不燃ごみを破砕、選別、圧縮処理などの様々な処理方法により、その後の処理が効率良く再資源化できるよう努めています。

破砕残さ及び埋立ごみは、御石ヶ沢最終処分場にて埋立処分を行っています。焼却灰の処理については、1999（平成 11）年 4 月から溶融固化処理し、再資源化することにより、最終処分場の延命が図られました。

本市の 2021（令和 3）年度における最終処分量は 341t/年で、前年度までと比べて大幅に減少しました。また、1 人 1 日当たりの最終処分量は 14.0g/人・日であり、2020（令和 2）年度の県平均（40.0g/人・日）より少なくなっています。



最終処分量の推移
【資料：一般廃棄物処理実態調査】



１人１日当たりの最終処分量の推移
【資料：一般廃棄物処理実態調査】

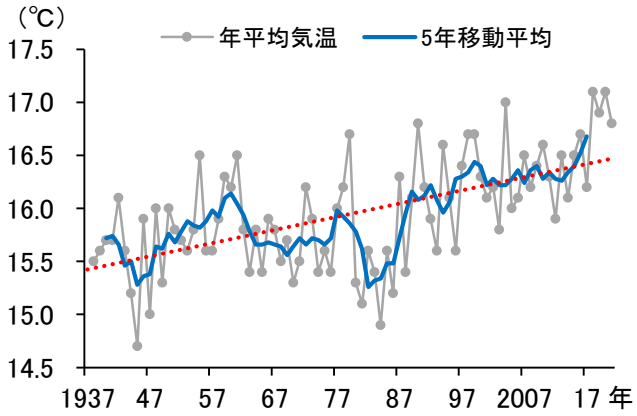
(2)散乱ごみ・不法投棄

本市では、清潔で美しい景観を保全し、快適な生活環境を確保するために 1996（平成 8）年 10 月 1 日から「伊東市空き缶等のポイ捨て防止に関する条例」を施行しています。条例では、市民・事業者・市それぞれの役割を定めるとともに、ポイ捨て行為を禁止しています。

市内では、山間部などを中心に不法投棄がみられることから、県等の補助金を活用し、防止柵や監視カメラを設置するなどの対策を図っています。

(3)長期的な気温変化

網代特別地域気象観測所のデータによると、1937（昭和12）年以降、年平均気温が徐々に高くなってきており、80年間で約1℃上昇しています。特に2018（平成30）年度、2020（令和2）年度は17.1℃と過去最高を記録しています。



平均気温の推移（網代）

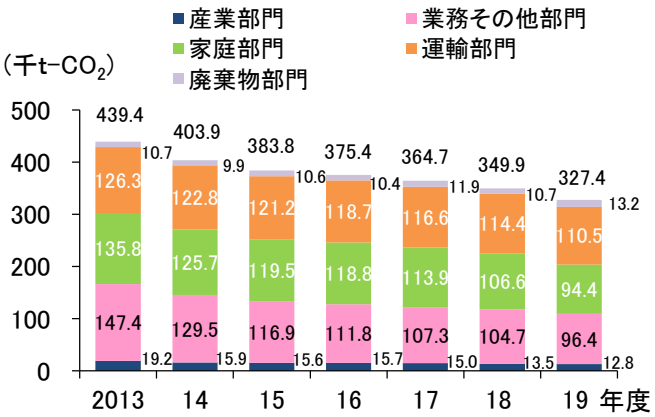
【資料:気象庁】

(4)温室効果ガス排出量

■市域の温室効果ガス排出量

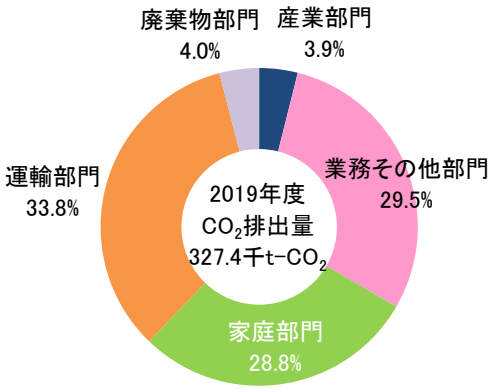
本市の 2019（令和元）年度における二酸化炭素排出量は 327.4 千 t-CO_2 です。部門別にみると、運輸部門（110.5 千 t-CO_2、33.8%）が最も多く、次いで業務その他部門（96.4 千 t-CO_2、29.5%）、家庭部門（94.4 千 t-CO_2、28.8%）、廃棄物部門（13.2 千 t-CO_2、4.0%）、産業部門（12.8 千 t-CO_2、3.9%）の順となっています。

経年変化をみると、二酸化炭素排出量は年々減少傾向にあり、2019（令和元）年度は 2013（平成 25）年度と比べて 25.5%減少しています。部門別では、業務その他部門（-34.6%）、産業部門（-33.2%）、家庭部門（-30.5%）、運輸部門（-12.5%）が減少し、廃棄物部門（+23.7%）が増加しています。



伊東市の二酸化炭素排出量の推移

【資料:環境省・部門別 CO_2 排出量の現況推計】



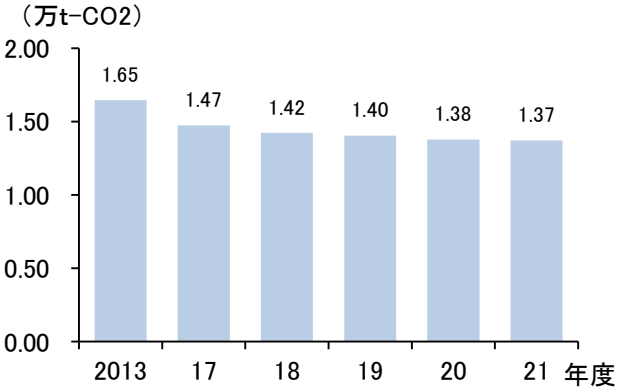
伊東市の二酸化炭素排出量の割合（2019 年度）

【資料:環境省・部門別 CO_2 排出量の現況推計】

■市の事務事業による温室効果ガス排出量

本市では、「伊東市役所地球温暖化対策実行計画（第4次エコアクションプラン）」を策定し、市の事務事業から排出される温室効果ガス排出量の削減を進めています。2030（令和12）年度に2013（平成25）年度比で40%以上の削減目標を掲げています。

2021（令和3）年度は、1.37万t-CO_2であり、2013（平成25）年度比で16.6%減少しています。



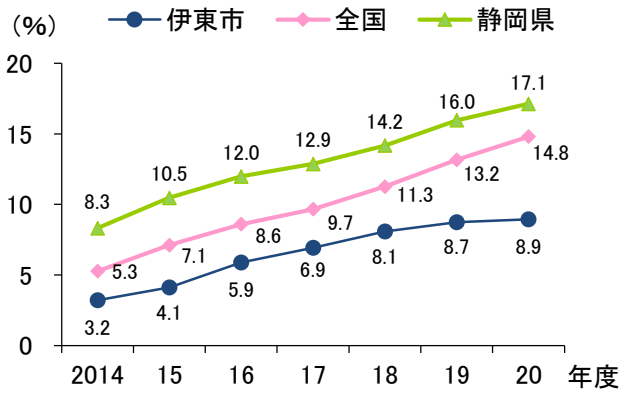
伊東市役所の温室効果ガス排出量の推移
【資料：伊東市環境課】

(5)エネルギー

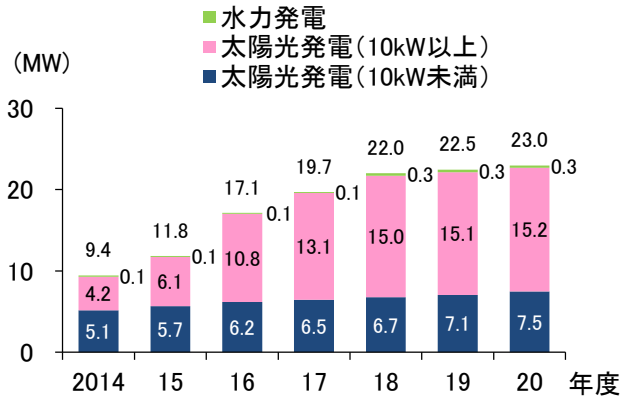
■再生可能エネルギー

「環境省・自治体排出量カルテ」によると、市内の再生可能エネルギーの導入状況は、2020（令和 2）年度の導入容量が 23.0MW、発電電力量が 30.7GWh となっており、少しずつ増加していますが、そのほとんどが太陽光発電です。なお、本市では、「伊東市住宅用新エネルギー及び省エネルギー機器設置費補助金」で太陽光発電システムへの補助を行っています。

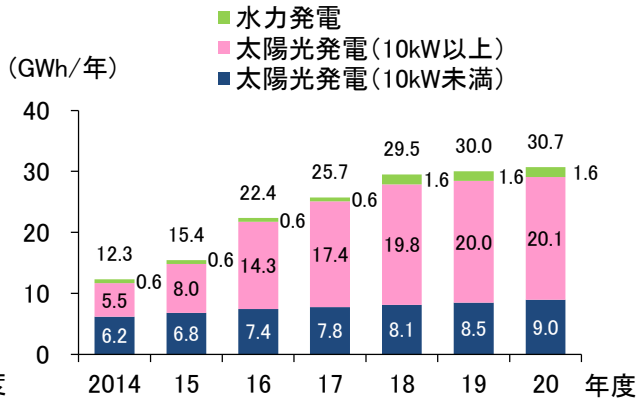
また、2020（令和 2）年度における本市の消費電力に占める再生可能エネルギー発電量の比率は 8.9%であり、全国（14.8%）、静岡県（17.1%）よりも少なくなっています。



再生可能エネルギー発電量の比率の推移
【資料：環境省・自治体排出量カルテ】



導入容量の推移
【資料：環境省・自治体排出量カルテ】



発電電力量の推移
【資料：環境省・自治体排出量カルテ】

■「伊東市美しい景観等と太陽光発電設備設置事業との調和に関する条例」の施行

再生可能エネルギーの活用推進や地球温暖化対策として、市内でも太陽光発電設備の設置が増加しています。しかしながら、大規模な森林伐採や土地の造成などによる、土砂災害の発生、自然環境や生活環境への影響が懸念され、また、地域住民や関係者への事前の説明不足などでトラブルも多く発生しています。

これらを踏まえ、本市の美しい景観、豊かな自然環境及び市民の安全・安心な生活環境と太陽光発電設備設置事業との調和を図ることを目的とする「伊東市美しい景観等と太陽光発電設備設置事業との調和に関する条例」を 2018（平成 30）年 3 月に公布し、6 月から施行しました。

■再生可能エネルギー・省エネルギー機器の設置に対する補助金の交付

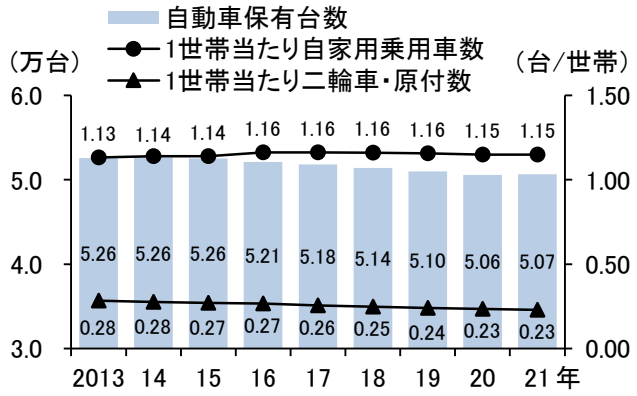
本市では、再生可能エネルギー・省エネルギー機器の設置に対する補助金を交付しています。2022（令和4）年度の対象は、太陽光発電システム、家庭用燃料電池システム（エネファーム）、リチウムイオン蓄電池システム、家庭用エネルギー管理システム（HEMS）となっています。

(6)交通

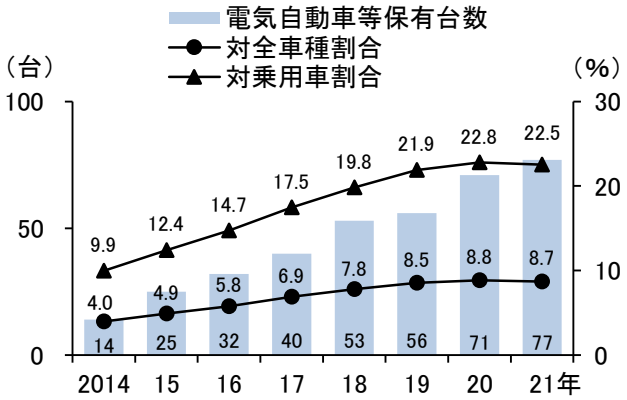
■自動車保有台数・電気自動車等

本市の 2021（令和 3）年の自動車保有台数は 50,657 台であり、近年は減少傾向にあります。1 世帯当たりの車両数（自家用乗用車）は 1.15 台/世帯であり、静岡県平均(1.50 台/世帯）より少なくなっています。

また、電気自動車等（電気自動車、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車）保有台数は増加しており、対全車種割合は 8.7%（県平均 9.7%)、対乗用車割合は 22.5%（県平均 22.7%）で、いずれも県平均より少なくなっています。



自動車保有台数の推移
【資料：静岡県自動車保有台数調査】

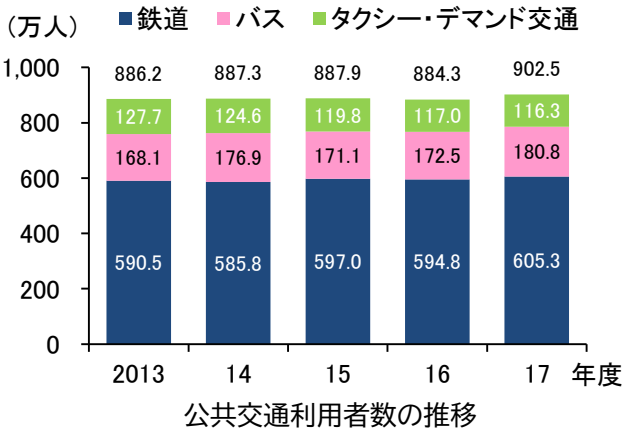


電気自動車等保有台数の推移
【資料：静岡県自動車保有台数調査】

■公共交通

市内の公共交通網は、鉄道（JR 伊東線、伊豆急行）が南北に運行しており、鉄道の運行がない地域では、路線バスが伊東駅を中心に網羅されています。また、伊豆高原から赤沢地域では、路線バスの代替としてデマンド型交通が運行しています。

公共交通利用者数は、2017（平成 29）年度は約 900 万人であり、鉄道（67.2%）が最も多く、次いでバス（20.0%)、タクシー・デマンド交通（12.9%）となっています。なお、鉄道・路線バスでの人口カバー率は、市内全体で 70.3%となっています。



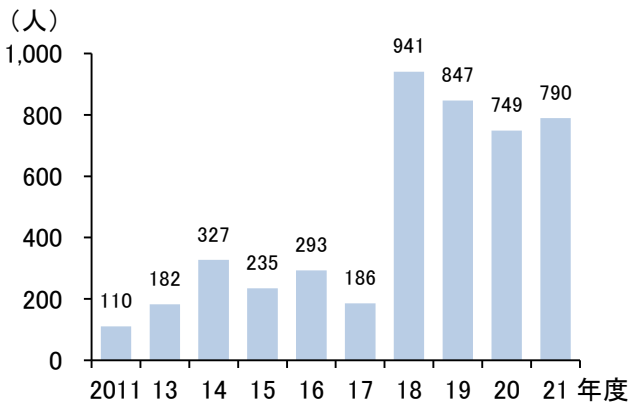
公共交通利用者数の推移
【資料：伊東市地域公共交通網形成計画】

第５節　環境学習等

(1)環境学習

本市では、環境学習に必要な情報については、県や学校と連携を図り、環境関係のリーフレットの整備や情報収集に努めるとともに各種資料を教育現場において活用しています。

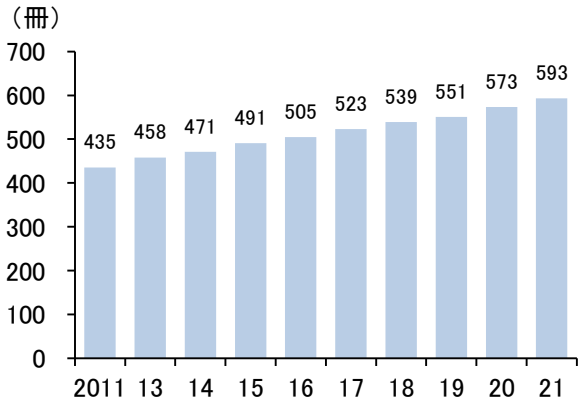
また、毎年、環境学習講座を開催しており、2021（令和 3）年度は環境美化センター見学に 453 人、ふるさと教室に 226 人、アースキッズ事業に 111 人、合計 790 人が参加しました。環境学習講座の参加人数は、2018（平成 30）年度から大幅に増加しました。



環境学習講座の参加人数
【資料：伊東市環境基本計画年次報告書】

(2)環境情報

本市では、市のウェブサイトや「伊東市環境基本計画年次報告書」の発行などにより、環境情報の提供を行っています。また、図書館における環境資料の蔵書数は毎年増加しており、2021（令和 3）年度は合計 593 冊になりました。



図書館における環境資料の蔵書数
【資料：伊東市環境基本計画年次報告書】

市のウェブサイト

(3)環境保全活動・環境配慮

■環境保全活動・環境配慮

本市では、河川環境の保全をはじめとした様々な活動を実施する団体との協働により、環境保全が図られています。

市役所では、「伊東市役所地球温暖化対策実行計画」や「伊東市環境物品等の調達に関する基本方針」に基づく環境配慮を率先して行っています。

■SDGs

本市は、「伊東市総合計画」（2021 年度～2030 年度）において、SDGs の視点を加え、政策目標ごとに横断的な視点で各施策の推進に当たり、持続可能なまちづくりを推進しています。具体的には、民間と行政の特性や資源を活かして協力連携することで SDGs の推進を目指す「SDGs 推進における包括連結協定」の締結、市民活動団体と芸術文化団体が行う SDGs の達成に寄与する地域社会貢献事業を支援する「SDGs 推進事業補助金」の創設などを行っています。

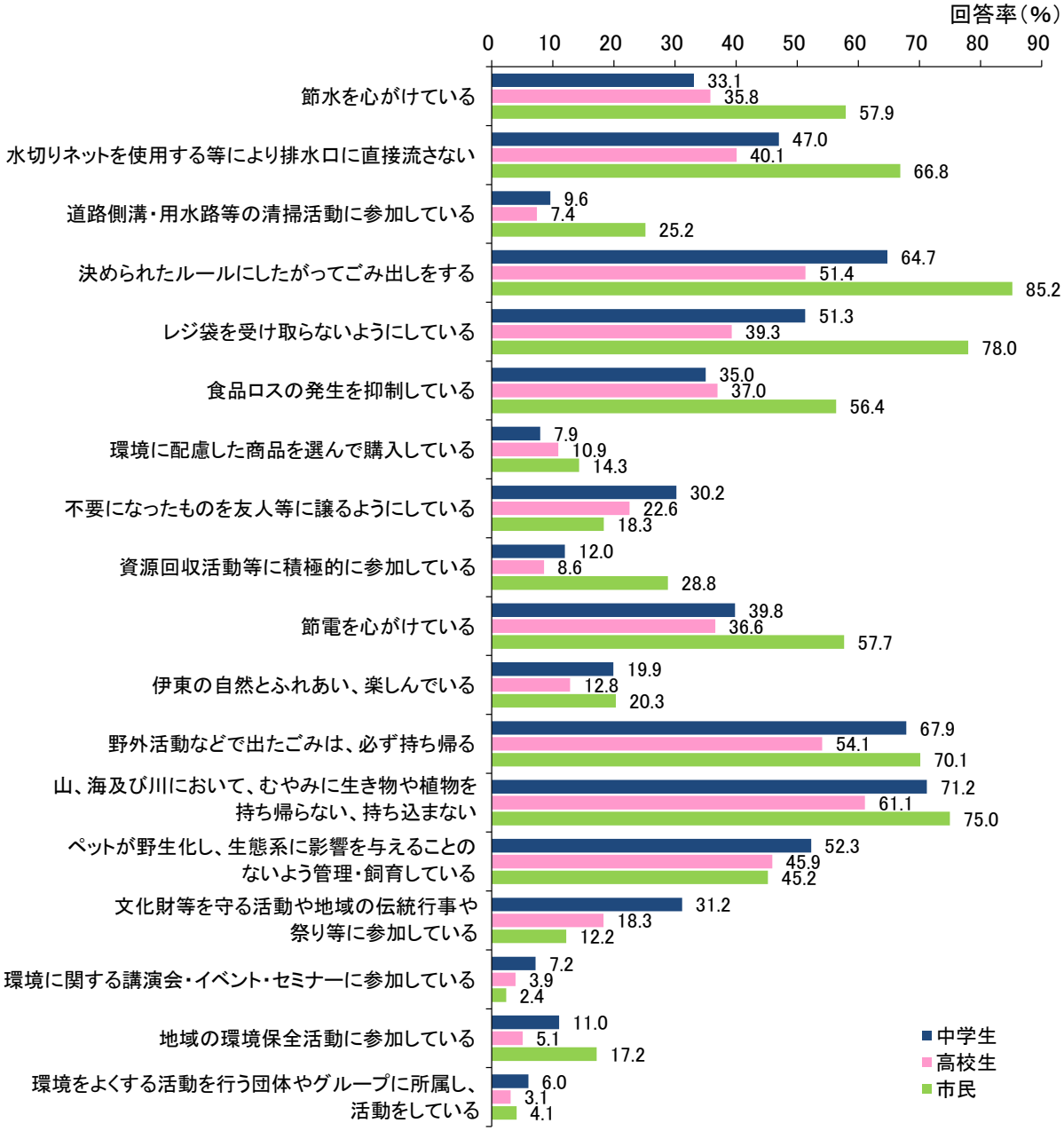
第６節　市民・事業者の意識

市民の皆さんに伊東市の環境に関するご意見を伺い、新たな環境基本計画に反映させることを目的に「環境に関するアンケート調査」を 2021（令和 3）年度に実施しました。

(1)環境にやさしい取り組み【中学生・高校生・市民】

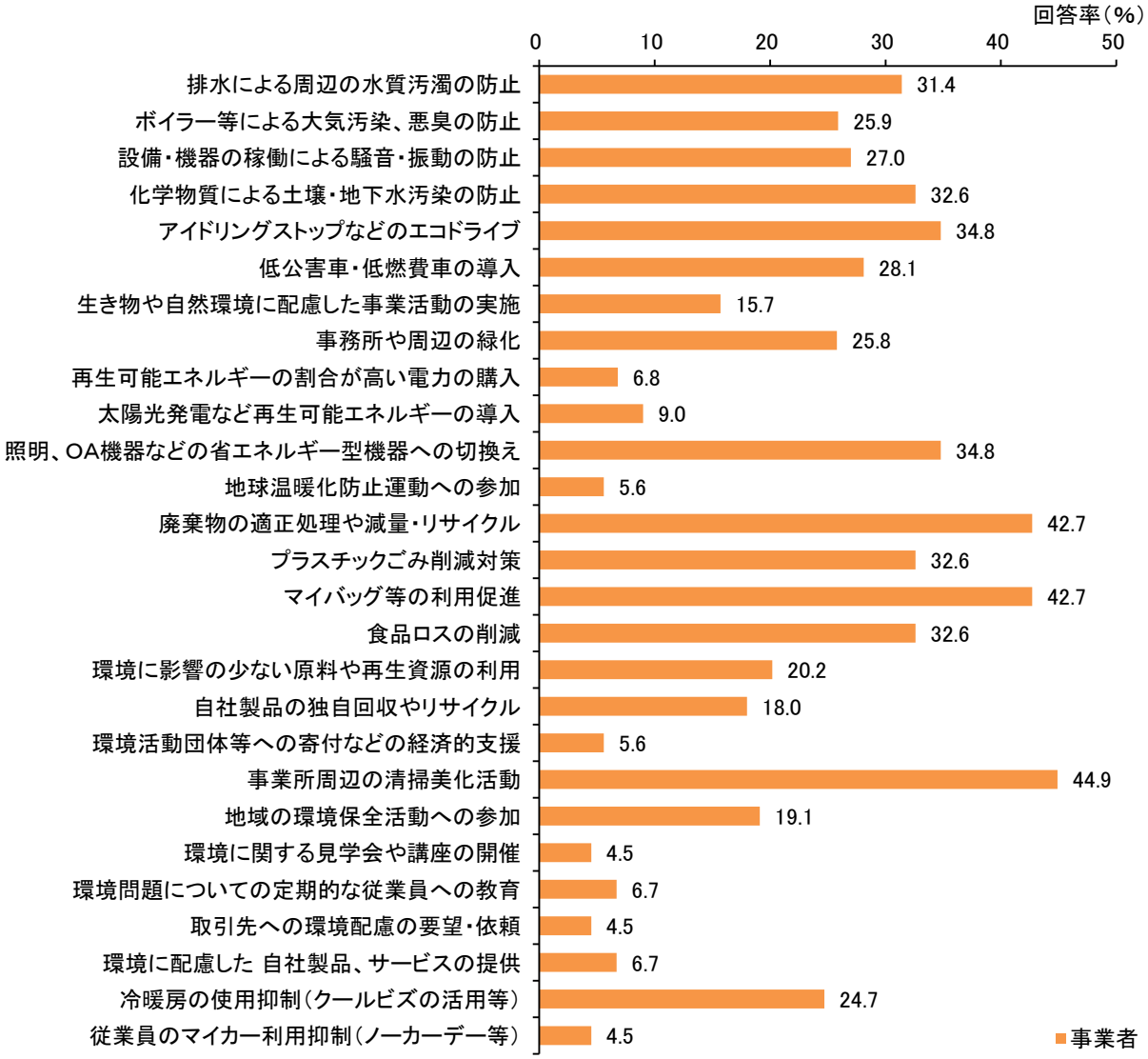
環境にやさしい取り組みについて、中学生・高校生・市民の「取り組んでいる」という回答が多かったのは、「ルールにしたがってごみ出しをする」「ごみは必ず持ち帰る」「生き物や植物を持ち帰らない、持ち込まない」などでした。その一方で、回答が少なかったのは、「環境に関する講演会・イベント・セミナーへの参加」「地域の環境保全活動への参加」「環境をよくする活動を行う団体やグループに所属して活動する」でした。

なお、「不要になったものを友人等に譲る」「文化財等を守る活動や地域の伝統行事や祭り等に参加している」などは中学生の回答率が、高校生・市民の回答率よりも高くなっています。



(2)環境にやさしい取り組み【事業者】

環境にやさしい取り組みについて、事業者の「取り組んでいる」という回答が多かったのは、「事業所周辺の清掃美化活動」「廃棄物の適正処理や減量・リサイクル」「マイバッグ等の利用促進」などでした。その一方で、回答が少なかったのは、「環境に関する見学会や講座の開催」「取引先への環境配慮の要望・依頼」「従業員のマイカー利用抑制（ノーカーデー等）」でした。



colum コラム

「環境に関するアンケート調査」の概要

■実施年月日：2021（令和 3）年 10 月 22 日～12 月 9 日

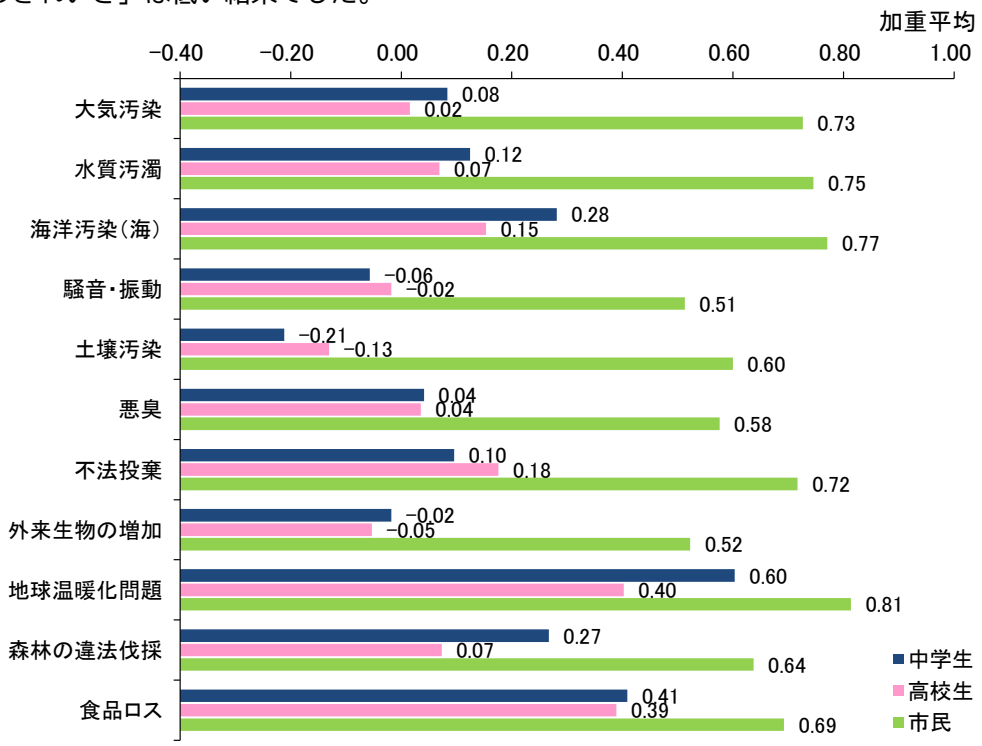
■対象者・回答率：市内在学の中学 2 年生（483 人：回収率 86.3%）、市内在学の高校 2 年生（271 人：回収率 94.8%）、18 歳以上の市民（2,100 人：回収率 36.3%）、市内の事業者（200 事業所：回収率 44.5%）

(3)環境の関心度・周辺環境の評価

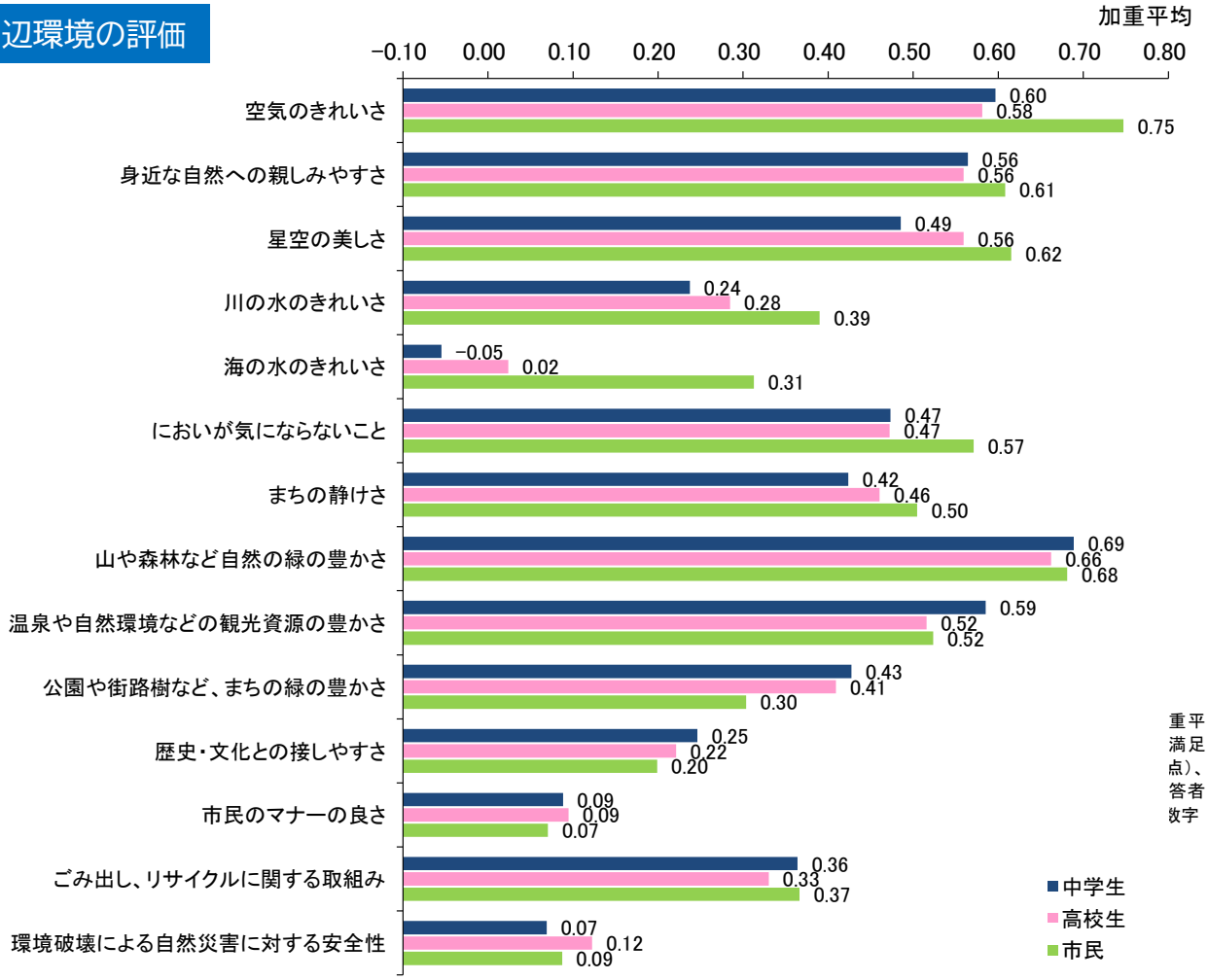
環境の関心度は、中学生・高校生は「地球温暖化問題」「食品ロス」が高く、市民は全般的に高くなりました。周辺環境の評価は、中学生・高校生・市民ともに「山や森林など自然の緑の豊かさ」「空気のきれいさ」などは高く、「海の水のきれいさ」は低い結果でした。

環境の関心度

注）環境の関心度の加重平均は「ある」（1 点）、少しある（0.5 点）、あまりない（−0.5 点）、ない（−1 点）を合計して回答者数（無回答を除く）で割った数字



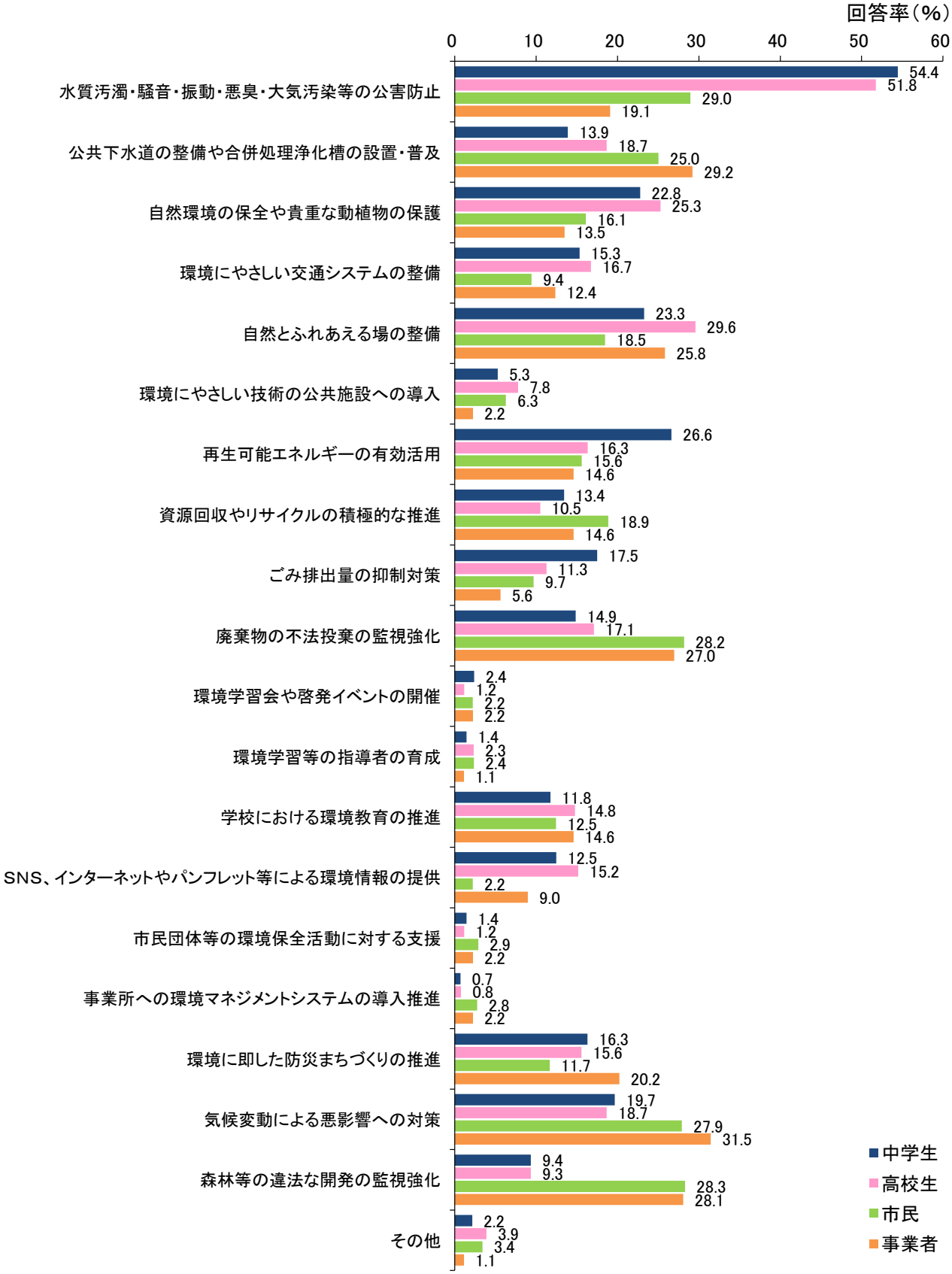
周辺環境の評価



重平
満足
点）、
答者
数字

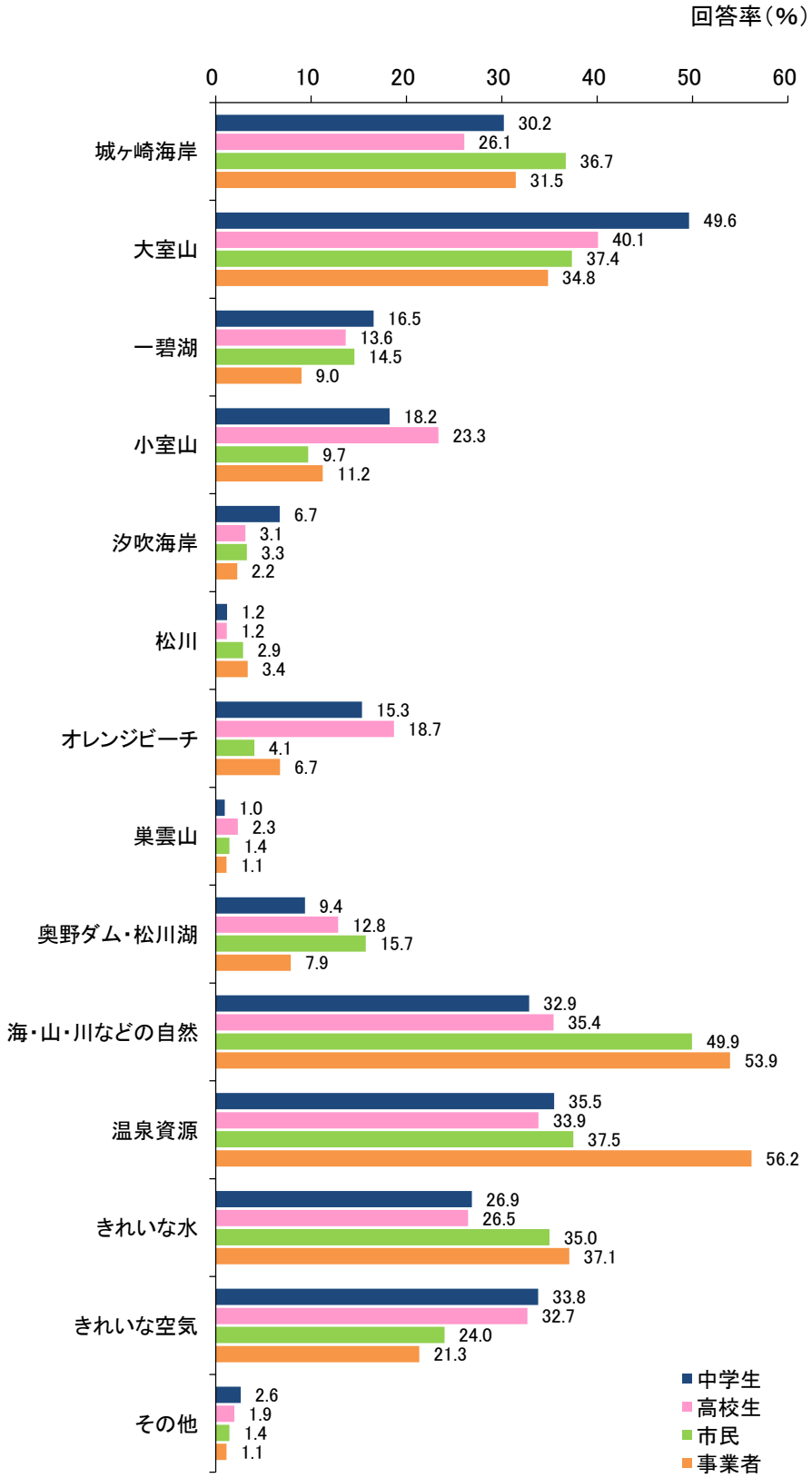
(4)本市でこれから積極的に取り組むべきもの

本市でこれから積極的に取り組むべきものについて、回答率が高かったものは、中学生が「公害防止」「再生可能エネルギーの有効活用」、高校生が「公害防止」「自然とふれあえる場の整備」、市民が「公害防止」「森林等の違法な開発の監視強化」「不法投棄の監視強化」「気候変動」、事業者が「気候変動」「公共下水道の整備や合併処理浄化槽の設置・普及」「森林等の違法な開発の監視強化」などでした。



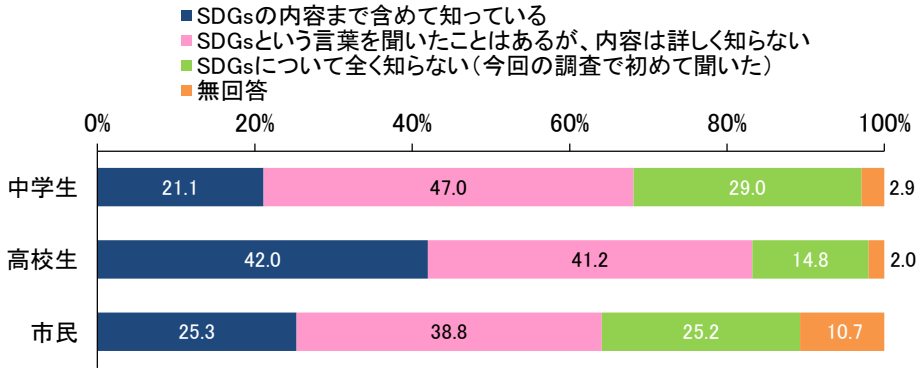
(5)将来に残したい環境・場所・風景

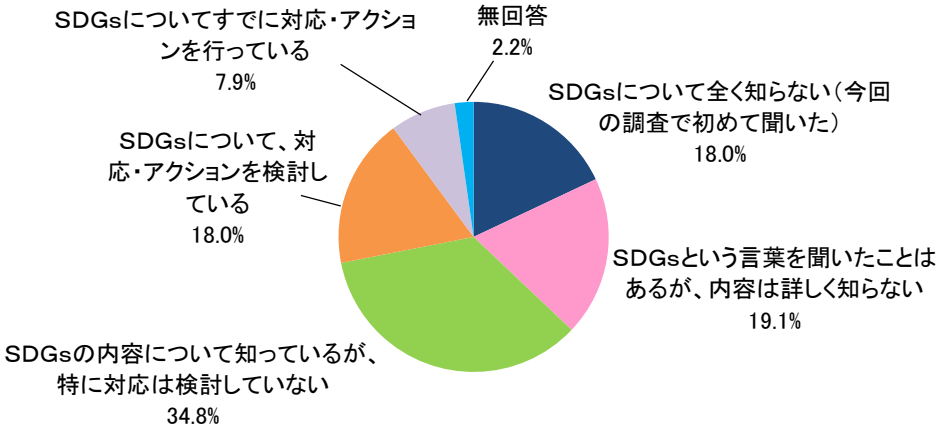
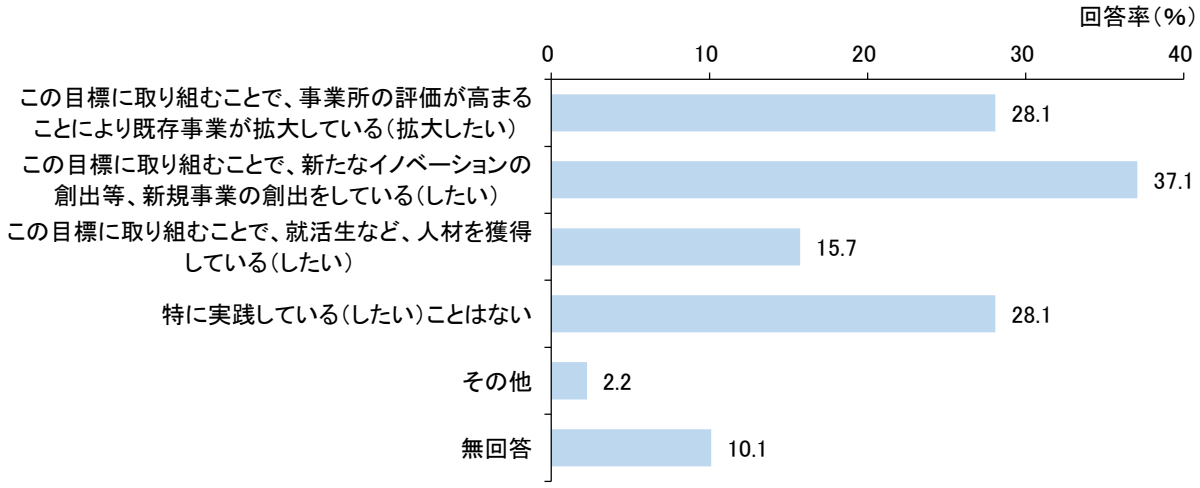
本市でこれから積極的に取り組むべきものについて、回答率が高かったものは、中学生・高校生が「大室山」、市民が「海・山・川などの自然」、事業者が「温泉資源」「海・山・川などの自然」でした。



(6)SDGs という言葉の認知度

SDGs という言葉の認知度として、「SDGs の内容まで含めて知っている」という回答は、高校生が 42.0%で最も多く、市民は 25.3%、中学生は 21.1%でした。



事業者の SDGs という言葉の認知度について、「SDGs について、対応・アクションを検討している」は 18.0%、「SDGs についてすでに対応・アクションを行っている」という回答は 7.9%でした。

また、SDGs の目標に取り組むことで、「新たなイノベーションの創出等、新規事業の創出をしている（したい）」という回答が 37.1%と全体の約 4 割を占めていました。